

総理大臣 福田康夫様

防衛大臣 石破 茂様

新しい反安保行動をつくる実行委員会

防衛汚職にまみれた「米軍再編」を許さない

いったい、貴職らは、2008年の新年を如何なる思いで迎えたのだろうか？ 防衛庁・防衛省のナンバー2だった男が、「株式会社 山田洋行」との間での贈収賄の容疑で逮捕・再逮捕された事実を防衛省並びに「日本国の防衛」に責任を負うものとして如何なる決意をもって、今、いるのだろうか？

私達は辺野古実の一員として、「米軍再編」の要と言われる沖縄・辺野古の海を埋め立て破壊する米軍基地建設を止めるとこれまでも何度も何度も要請してきた。その間にも、沖縄や「本土」の米軍基地から出撃した米軍は、イラク等に派兵され、多数の民衆を殺戮し破壊してきた。私達は、この事実を忘れることはできないし、許すこともできない。特に沖縄の人々は、毎日毎日、繰り返されている軍事演習の被害に苦しめられ続けている。さらに辺野古では、基地機能の増強をもくろむ新たな基地建設が「負担軽減」という大ウソと利権のばらまきによって、強行されようとしているのだ。

守屋武昌の犯罪は、これまで報じられた内容から判断しただけでも、それが防衛庁・防衛省が構造的に生み出した汚職であり、その中で私欲に駆られた利権の追求であったことは、余りにも明白である。ごく限られた企業との契約、防衛庁・省の99.8%の契約が随意契約だという驚くべき事実があり、水増し請求が簡単にできる仕組みも明らかになってきた。否、“水増し”以前の問題だ。そもそも「自由競争」とは無縁で、単価計算や標準価格という概念すらないようであり、組織の内外から会計検査を受ける仕組みを欠き、国会にすら殆ど報告されていない。契約や予算執行のすべてに軍事機密のベールを被せて、私達納税者の目から塞ぎ、ごまかしてきたのではないのか。

特に、「米軍再編」の一環として、沖縄の基地をグアムに移転する費用の内、日本政府は約7000億円を負担することで合意したそうだが、法外な金額に係わらず、その積算根拠は全く明らかにせず、具体的な仕様に対して、経費を積み上げ予算を立てるのではなく、概算1兆2000億円の59%だというのだから呆れ返る。

そのうえ、「山田洋行」が、こうした「米軍再編」に伴う利権にも深く係わりようとしていたことが、検察当局の捜査過程で明らかになりつつあるのだ。

ところで、守屋武昌元防衛庁事務次官は、96年に内閣審議官として沖縄特別行動委員会に係わり沖縄振興開発計画の策定に関与し、98年11月に官房長となり、02年1月、防衛局長、03年8月から4年余りの間、事務次官の要職にあった。それも彼を事務次官に任命したのは、外ならぬ石破茂防衛庁長官（当事）なのだ。この時間は、日本の自衛隊のアラビア海やイラクへの派兵と沖縄・辺野古への新基地建設の押し付けとが完全に重なっている。

だから貴職らは、汚職まみれの守屋元事務次官が、沖縄の基地建設等の「米軍再編」を積極的に推し進めてきたことを深く知り得る立場にあり、そればかりか共に推進してきたのであり、監督責任は逃れようもない。そこで私達は、以下のとおり要求する。

- ① 野古への新基地建設を初めとした「米軍再編」の一切の計画を撤回し、その作業を全面的に取りやめること。
- ② 「山田洋行」等の関係法人・個人の「米軍再編」を巡る一切の汚職・利権の実態について、その構造を全面的に明かし、特に守屋元事務次官が、辺野古沿岸案、V字型計画の策定に関与した経緯と責任を明らかにし、貴職ら総理大臣、防衛庁長官・防衛大臣の一連の監督責任を明らかにし、謝罪すること。

(以上)

(2008年1月7日) ◆ 《連絡先》 東京都千代田区三崎町3-1-18 近江ビル4階 03-5275-5989→